

## 環境影響評価の方法に対する見解（案）

## ○複合環境影響について

周辺事業との複合的な環境影響を踏まえた調査地点を定め、現況調査、予測及び評価を実施すること。

## ○騒音について

## 1 現況調査、予測の手法及び評価の方法

## (1) 現況調査

行楽シーズンなどの万博公園の来場者が年間でも特に多い時期を選定し、調査時期に追加すること。

## (2) 予測の手法

①建設機械の稼動に伴う騒音レベルの予測にあたっては、日本音響学会 ASJ-CN モデルによる算出を行うこと。

②施設の供用に伴う騒音レベルの予測にあたっては、類似施設における観客の歓声及び楽器の使用に起因する騒音レベルを把握すること。なお、観客の歓声や楽器音による騒音レベルの予測においては、距離減衰に加え、施設の建物による反射や透過の影響を考慮した計算法とすること。

## (3) 評価の方法

妥当である。

## 2 調査地点

事業計画地近傍の住宅地（清水）を調査地点として追加すること。ただし、高低差を踏まえて、現況調査、予測及び評価を実施すること。

## ○振動について

## 1 現況調査、予測の手法及び評価の方法

## (1) 現況調査

妥当である。

## (2) 予測の手法

施設の供用に伴う振動レベルの予測にあたっては、類似施設における観客の応援（踏み鳴らし等）に起因する振動レベルを把握すること。なお、類似施設の選定においては、施設の種類、規模だけでなく、立地している地盤の特性や周辺地域の環境の類似性を考慮すること。

## (3) 評価の方法

妥当である。

## 2 調査地点

事業計画地近傍の住宅地（清水）を調査地点として追加すること。